

山梨県高校生の基礎学力の定着に向けた学習改善のための調査研究ビジョン

1 目的

課題

- 低迷する家庭学習時間
- 学習意欲の低下
- 低い自尊感情

解決のためには

- 高校生に求められる基礎学力の確実な習得
- 目標を設定して取組を進める学習意欲の喚起を実現する高校教育の質の向上が求められる

そのためには

PDCAサイクルの確立

- 生徒が自身の学習到達度を把握し、自ら設定した課題の解決に資するための仕組みづくり
- 教員が生徒の変容を的確に見取り、更なる指導の充実に資するための仕組みづくり

2 実施内容

県教育委員会の支援

- 外部有識者による調査研究事業検討会議を設置
- 実践研究校の取組内容、成果検証等に関する指導・助言（ICT機器を効果的に活用するためのコンテンツ等への支援）
- 個々の状況を詳細に把握するために国数英の到達度に対するルーブリックを作成し評価の充実を図る

- 得られた成果・知見をもとに基礎学力育成プログラムをまとめ、域内の全学校へ周知・普及

実践研究校における調査研究

- ICTを効果的に活用した仕組みの開発と一人一人のニーズに応じた基礎学力定着のためのPDCAサイクルの計画
- 生徒の実態に応じた基礎学力の定義付け
- カリキュラムマネジメント

そのために

◇e-ラーニング用の教材コンテンツ開発蓄積
⇒ 生徒が個人的に取り組むことができる教材をストックし、学習の進捗状況に応じて提供できる環境を整える

- 生徒の学習履歴やテスト結果をデータベース化した記録に基づき、個々の生徒の学力に応じた朝学習や放課後学習用自習教材を提供
- 授業の予習復習に資する効果的なデジタルコンテンツの提供
- アクティブ・ラーニングの視点に基づいたICT機器を活用した授業実践※

※分りにくいことを分りにやすくするICTの活用と、分りにくいことを徹底的に考えさせる紙を使った従来型の学習方法との効果的な指導方法についても検討する。

P
LAN

D.
O

そのために

◇CBTの結果を含めた学習履歴の分析方法を確立し、改善計画作成をマニュアル化 ⇒ 生徒一人一人の学習履歴を分析し、実施内容（DO）の検証結果をデータベース化する

実践研究校2校
（総合学科、普通科）

そのために

◇基礎学力を測るテスト問題のデータベース化とCBTの方法のマニュアル化 ⇒ 到達度などを確認する試験をCBT方式により実施できる環境を整え、テストデータの分析検証により、個に応じた適切な指導に結び付ける

A
ction

C
heck

そのために

- 個別のデータに基づいて、助言・激励のコメントを送信
- 身に付かなかった学びについて、グラフなどのデータを活用した指導体制で生徒をサポート

◇学習履歴の蓄積・把握とPDCAサイクルの確立
⇒ 生徒個々の学習履歴や到達度を整理し、今後の学習に生かすカルテ的な役割を果たす評価表を作成

- 結果を踏まえてテスト問題の妥当性を検証
- CBT方式による試行テストを実施し、生徒の結果から状況等を把握し、技術的な課題を解決した受検環境を整備

◇ 指導体制の確立・教員資質向上研修の改善計画検討 ◇



◇ 県下全体の高校に普及し、各校のPDCAサイクルに繋げていく ◇